

令和7年度 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

山形県立庄内農業高等学校

学校教育目標 めざす生徒像	1 知性と感性を磨き、健康な身体と健全な精神を身につけた自立した人間を育てる。 2 自主性と創造性を培い、自己探求と自己実現に向けた実践力ある人間を育てる。 3 「農」の学習をとおして「いのち」と「環境」の大切さを学び、心豊かな人間を育てる。 4 地域社会との「かかわり」をとおして、社会の発展に貢献できる人間を育てる。	A 達成 B 概ね達成 C やや不十分 D 不十分
具体的目標 重点目標	1 「安全」に「安心」して暮らせる学校づくり 2 社会の変化に対応した「学び」の充実 3 個々の未来を切り拓く「進路指導」の充実 4 入学志願者確保に向けた「魅力創造」と「魅力発信」 5 地域から愛され、社会から必要とされる学校づくり	

自己評価				学校関係者評価	
番号	重点目標	具体的方策と指標・基準等	達成度	成果(○)と課題(●)、次年度に向けた改善策(☆)	意見・要望・評価等
1	「安全」に「安心」して暮らせる学校づくり	「規範意識」と「社会性」を高める生徒指導	C	○全教職員による定期的な服装頭髪指導や全校集会時の指導により、規律ある行動の意識高揚を促してきた。●問題行動による特別指導があった。☆個別の生徒指導の強化が必要である。	B 問題行動があったのは残念だが、指導を行い、対策をしていること、また、生徒に寄り添い取り組んでいる様子があり評価できる。通常の学校生活をはじめ、部活動や学校行事においても生徒の話し表情を見ると、学校における「安心・安全・心身の充実」が感じられる。
		いじめの「未然予防」と発生時の「迅速適切な対処」		○いじめについては学年と連携し適切な対応を行うことができた。☆今後も学年団と情報共有を行い、また、生徒の相談体制が整っているかの確認し、未然防止に努めたい。	
		「自己肯定感」を高め、「居場所」と実感できる特別活動の計画		○様々な行事では自己の役割にしっかり取組むことで集団全体の成果となるような経験を積ませることができた。☆支援を要する生徒にとっては、集団作りの取組がストレスとなる部分もある。個別の支援を通して自己肯定感の醸成に努めていく。	
		「生徒理解」の促進と「特別支援教育」の充実		○個別面談や日常の観察・会話により生徒理解に努め、授業担当者間で生徒の状況や人間関係及び支援の情報交換・共有を図り、具体的対応策を検討している。支援を要する生徒においても、保護者との意思疎通に努め、理解と協力を得ながら、将来の方向性について共に考えることができた。○専門家によるカウンセリングが必要な生徒には、タイムリーに対応している。	
2	社会の変化に対応した「学び」の充実	「安全管理」の徹底と「安全教育」の充実	C	○毎月の安全点検を通して、未然防止や危機管理に備えることができた。○校外や校地外での実習等に備え、クマ出没対策について対応策を構築した。☆社会の変化に応じた危機管理マニュアルの見直し。	B 農業情報の取扱いについては継続した取組みが必要で、得られたデータ解析と実際のデータとの照合など、使い方をしっかりと学習できるような体制を望む。英語教育については、農学部留学生も支援できると考えている。スマート農業に関する教育において、様々な機器の関連性や操作技術について学べる環境が素晴らしい。また、農業クラブ上位大会において結果を出していることに、学校の教育力と生徒の意欲を現れを感じる。
		わかる喜びを授ける「授業力」の向上と「学習アプリ」の活用促進		○県教育センター研修の一環としての研究授業、生成AIやICT活用校内教員研修（新規）を定期的実施した。●学習教材「monoxer」を導入し、朝学習において効率的な学習を進めてきたが、生徒の取組状況には温度差があり、学び直しが十分達成できたとは言えない。☆来年度からは学習教材「スタディサプリ」を新たに導入活用し、基礎学力向上を図る。	
		「プロジェクト学習」の充実に向けた全職員指導体制の確立		○各種大会で東北及び全国大会出場を目指し、意見発表で2名東北大会に出場。●プロジェクト発表及び測量等では東北大会への出場ならず、☆農業科教員の指導が中心となっており、普通教科教員への働きかけを行い、来年度は全教職員指導体制の確立を図っていききたい。	
		「スマート農業」に係る学習環境や農業機器の整備		○ドローンに関しては「マルチスペクトルカメラ搭載ドローン」「ドローンシュミレーター」等を導入し、授業等での活用を図っている。衛星システムザルビオとも契約し、スマート農業を取入れた授業実践を進めている。☆引き続き授業での実践、有効活用を図れるよう検討していききたい。	
3	個々の未来を切り拓く「進路指導」の充実	農業経営や人生設計等に係る「金融教育」の充実	B	○東北農政局より、みどりの食料システム戦略について講話をいただいた。○税理士を講師とした租税教室を実施した。○庄内総合支庁総務企画部から講師を招き、消費者教育の観点から学びを深めた。☆来年度も引続き、金融教育に取組み、各農業科目や課題研究等でテーマに沿った経営収支や情勢等について学習を進めたい。	B プレゼンテーション能力の強化では、農学部の学生も含めた共同での取組みも考えられる。農業法人への就職が進路先として定着していることがありがたい。また、山形大学農学部との「ミズアブ堆肥」や「スマート農業」等、学校から発信される取組みがメディア等で紹介され、研究・挑戦の拠点となることを期待している。
		会話力向上に資する「外国人交流機会」の提供		○県の事業として、地域の外国人労働者との交流活動を数回実施し、多様な国籍の方々とのコミュニケーションを図れた。また、2学年全員がオンライン英会話を計6回受講し、積極的にレッスンに取組んだ。☆他学年にもこのような機会を広げ、多くの生徒に実践的な英語に触れさせたい。	
		生徒・保護者の不安解消に資する「進路ガイダンス」と「進路相談」の実施		○各学年の発達段階に応じた進路ガイダンス及び講演会、並びに各学年での三者面談等の個別相談も行い、生徒保護者の不安解消や常に相談できる雰囲気作りを努めた。	
		「課題発見解決能力」と「情報活用能力」の育成		○農事視察やWAKU WAKU WORK、個別のオープンキャンパスの他に、地元企業説明会や求人票の紹介等も行い、生徒の希望する企業・学校を含め、魅力ある企業への視野拡大に努めた。	
4	入学志願者確保に向けた「魅力創造」と「魅力発信」	「プレゼンテーション能力」と「コミュニケーション能力」の育成	C	○DX事業として、情報機器等の活用とスマート農業の実践をスタートさせた。1人1台端末やAI等を活用した授業実践を模索している。○求人票のデジタル検索、入力履歴書、進学先のネット出願等によって、情報活用能力を高めることができた。☆教員も研修等を積み、来年度はDX関連設備等を活用した教育実践をより進めていきたい。	B WEBを使った情報発信をもう少し強化してもいいかと思われる。入学志願者確保に向けた小中学生への情報発信も考えられる。小規模な学校見学の機会を増やすと、参加者側も見学のチャンスが増えると思う。「ごはんソムリエ」や「野菜ソムリエ」といった米・野菜に関する資格取得を少し検討してみてもどうか。
		高等教育機関や研究機関、地域関係団体等との「共同研究」促進		○インターンシップ報告会や課題研究発表会等の場でプレゼン能力を育てていることはもちろん、生徒同士での検討や地域の方々の指導を仰ぐ事等を通してコミュニケーション能力を身につけている。●1、2年時からの進路意識向上に向けた指導は不十分であった。☆発表機会等で成果及び結果を出せる指導体制の構築。	
		「資格取得」の奨励の充実と「各種コンテスト」への積極的応募		○DX事業での生徒及び教員の研修、プロジェクト学習への指導助言等で、大学・事業所・藤島庁舎と連携・協働の機会を拡充してきた。☆来年度以降も連携及び協働の機会を増やしていきたい。	
		各種農業クラブ活動等の積極的な「公開」と「プレスリリース」		○学校行事については生徒が主体となる場面を作りながら、企画・運営を行い成功に終わることができた。可能な範囲で外部への公開も行っている。☆部活動については、多様な生徒の興味関心に対応するため、既存の活動が継続できるように考えている。今後も顧問教員と連携しながら状況に応じた検討を進めていく。	
5	地域から愛され、社会から必要とされる学校づくり	SNSを介した「生徒による魅力発信」システムの構築	B	○あなたが選ぶ日本一おいしい米コンテスト、高校生部門において「最優秀金賞」を受賞。農業技術検定（37名合格）や食品衛生責任者、日本情報処理検定等での取得率は高い傾向である。☆他の探究コンテストや資格についても積極的に挑戦する体制を構築していきたい。	B 学校の教科・分掌の枠に関わらず、一丸となって対応し、生徒・保護者の満足度が高いことが印象的だった。「学校運営協議会」によって、教育活動を地域の視点から共に議論する試みはとても刺激的で新たな展開への可能性を感じさせるものである。探究学習による地域課題の深堀りは、地域を知り地域社会と連携する非常に重要な教育活動と思われる。
		中学校の進路学習に対する積極的な支援と本校体験機会の拡充		○ふるさと納税における庄農米による返礼品、幼稚園児による田植え・収穫体験、庄農うどんによる市内小・中学校への提供、ミズアブ堆肥栽培による農産物贈呈：庄内病院・給食センター（市内小・中学校への提供）等に取組んだ。☆引き続き、情報公開等を行っていききたい。	
		地域連携体制の中核となる「学校運営協議会」の新設		○生徒制作動画をInstagramに投稿する試行的取組を行った。●委員会や部活動等の担当者による継続的な発信には課題を残した。☆来年度は、より組織的な体制を整えたい。	
		教育活動の評価と次年度計画の基礎となる「学校評価アンケート」の実施		○毎年実施している夏の1日体験入学の他に、中体連の代休（6月と9月）を活用して、学校特別公開を行い、中学生や保護者が本校を知る機会を増やした。☆次年度も継続し、よりよい機会となるよう実施内容について検討していく。	
5	地域から愛され、社会から必要とされる学校づくり	地域課題を探り解決を模索する「探究活動」の推進	B	○今年度からの取組みで、学校と対等な立場でご意見いただく委員の方々の本校への熱い思いを教職員と語り合う機会が持てた。地域連携担当のみならず、普通教科教員の学びの場としても活用できた。	B ○回収率を高めるべく紙によるアンケートを実施し、生徒100%・保護者98%の回答を得た。○昨年度と比較して多くの項目で評価の向上が見られた。○全体的なアンケート結果の公表も積極的に行った。
		授業や農業クラブ活動等を通じた「農産物販売会」等の充実		○総合実習や課題研究等で地域課題や社会情勢に向けたテーマを中心に探究学習を進めている。●外部に向けて探究学習の成果を広くアピールすることが課題。☆中学生へも学習成果を公開することで、本校をアピールし学校理解を深めることができると考えられる。入学志願者数増につなげるためにも、他機関との共同研究及び連携を更に推進したい。	
		生徒の地域貢献意欲向上に資する「地域団体活動への参画」推奨		○農業クラブ活動の一環として『つるおか大産業まつり』等に農産物を出品し、プロジェクト活動の紹介や生産物・製作物の試食提供及びアンケート実施等、販売だけに留まらない交流活動を実施することができた。☆販売以外にも体験ブースを設ける等、本校の教育活動を理解いただき「地域に愛される」取組みを強化していききたい。	
		地域課題を探り解決を模索する「探究活動」の推進		☆Hisu花での庄農イルミネーション、ふじしま夏祭りのスタッフ、地域の伝統行事への参加をしている生徒はいるものの、全体的にボランティアへの参加意識は低い状況である。ボランティアに関する情報を積極的に流し、また、学校全体でのボランティア活動を検討するなど、参画意識を高めたい。	

学校関係者評価を踏まえた改善点他	生徒を支援し抜く学校組織の体制整備、DXを中心とした高度な農業教育の拡充、進路等の実績も含めた学校魅力化の推進、入学志願者数増へ向けたより一層の取組の充実化、学校運営協議会を核とした教育課題解決への一手の創出
------------------	--